

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 5月 17日

### 【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270202700		
法人名	有限会社 エクセル		
事業所名	グループホームあたご		
所在地	〒858-0918 長崎県佐世保市相浦町 138-2		
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果市町受理日	平成22年5月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4270202700&amp;SCD=320">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4270202700&amp;SCD=320</a>
--------------	---

### 【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6番5号
訪問調査日	平成22年3月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 気候や天気がいい日は毎日散歩に出かけている</li><li>・ 入居者のみなさんが提案されたイベントや外食する機会を出来る限り設けている</li></ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

<p>その時々の方員の悩みや課題をいち早く把握し、機を逃さずその悩みや課題に応じた勉強会や面談が行われています。それらの取り組みを含め施設長のリーダーシップは様々な場面で発揮されており、方員の意思統一や理念の共有がなされています。入居者の家族とも良好な関係が築かれており、家族により行事の様子を撮られたビデオを入居者、家族及び方員皆で観るなどの取り組みもうかがえます。</p> <p>また、退居された入居者の写真を以前一緒に暮らした人として、そのままにしておいて欲しいという入居者の希望に添うなど、様々な事柄に柔軟に対応され、ホーム内は温かな雰囲気漂っていると感じられます。</p>
---

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」と掲げられた理念は、地域の中で、また家庭的環境の中での実現をめざして策定されています。	理念は、施設内に掲示され、「あたごだより」にも掲載されています。職員にも浸透しており、日々の支援の中でその実現を目指されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係は良好で、地域と共にご利用者を支える関係づくりが行われている。町内会との連携も強く、行事なども含め、小中学校や保育園とのかかわりも大切にしている。	町内清掃のほか、地域の祭りにも参加され、小・中学生や幼稚園児、ボランティアグループの訪問を受けるなど積極的に交流の機会をもたれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、町内会長、民生委員の方から周囲の高齢者の生活や傾向などを教えていただき、相談があれば随時相談に応じたり、その方にあった機関へ紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績報告やホームでの変更事項等を毎回報告している。また、意見交換や質問事項であげられた事は、次回開催されるまで具体化できるように努める。	家族会や地域、行政、医療機関などが参画され2カ月に1回の頻度で開催されています。その議事録からは、活動報告や活発な意見交換が行われていることが読みとれます。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐世保主催の研修や説明会には積極的に参加し、関係部署（長寿社会化・保護課等）へはホーム便りを持参するようにしている。	市との関わりは、運営推進会議のほか、必要に応じた情報交換や相談などが適宜行われています。また、「あたごだより」も市へ持参され提供されています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のマニュアルを整備してあるが、「拘束」せずに「心で包んでく」ように心がけている。</p>	<p>マニュアルが整備され、会議においても職員間で拘束しないことを前提としたケアのあり方について検討されています。また、施設長による指導や研修の受講も随時行われています。</p>	<p>次のステップとして、内外の研修に計画的に取り組み、更なる職員の育成につながることを期待します。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を実施し、日常の何気ない行動や言葉かけが虐待にあたらないか職員で話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修参加等の学ぶ機会を設けている。 (現在、成年後見制度を活用している利用者がいる)</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、ホームの独自のしおりを作成して説明を行い、疑問・不安点等は、入居後の面談の際に再度聞き取りを行っている。また、契約時の内容と変更が発生した時は、家族会総会にて変更内容を説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等にアンケートを実施し意見・要望を収集し、出された意見をケアや活動に反映していけるよう努めている。</p>	<p>年に2回の家族アンケートのほか、家族が来訪された時にも積極的にコミュニケーションを図り、意見や苦情等の聴取に努められています。また、意見により洗濯回数を増やされた事例なども確認できます。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的なミーティングにて意見を交換している。また、年に1度の個人面談を実施している。</p>	<p>施設長との個人面談により、職員の意見の聴取が行われています。また、日頃より相談しやすい関係が築かれており、職員が休みの日に相談に来られることもあるようです。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>本年度から代表者もミーティングに参加し、職員個々の努力や実績を管理者より、時折報告を受けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修会を開催し、職員も意欲的に取り組んでいる。また、資格取得にも意欲的で、そのための研修・講習等の参加も積極的に支援している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や介護支援専門員研修にも積極的参加し、同業者の情報交換を行っている。近隣のグループホームと風船バレー大会を行ったりイベントに誘っていただいたり、地域のグループホームとの交流は積極的に行っている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>訪問、面談を行い利用者、ご家族、友人、民生委員や利用していたサービス事業者の担当者等から不安や情報などを聞き取り、出来る限り安心した生活のスタートが出来るように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居を申し込みにいたった経緯や、ご家族等の支援状況、これからの不安や希望等を聞き取り、安心な生活へとつなげていけるように関係づくりを行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容を把握し、不安の解消や必要とされているサービスをホーム内に留まらず専門家からのアドバイスをいただけるように努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歩んで来られた歴史や環境、ご家族・親族・友人等への気持ちをわかちあい、日々一緒に生活していく中で新しい歴史を築き、様々な感情を共有出来るように努めている。また調理や畑仕事等昔ながらの方法や習わし等を協働することにより教えていただいたり共感できている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の近況報告に加え、面会・面談時にホームあった個々のおもしろ話やハプニング等を伝え、ご家族からも、昔のエピソード等を聞かせていただく。「ゆっくり・いっしょに・楽しく」過ごしていただけるようにどのご家族も協力的でいらっしゃいます。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	以前住んでいた近所へドライブや友人等の訪問は頻回である。訪問された方にも、事前にお電話をいただき外出していないか等の確認をしていただき、継続的な関係づくりを支援している。	入居者は、馴染みの地域に出かけたり、ホールや居室で友人との会話を楽しんだりしています。また、ホームの近隣が入居者にとって馴染みの場所となるよう日常的な交流にも努められています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係を理解し、トラブルが起こったり孤立させないような関係作りにつとめてる。必要に応じて席替えや居室変更を行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「家族」としての関わり合いを大切にし、契約終了後も訪問したり連絡をとっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の聞き取りや、生活をしていかれる中での対話の中から、個々の生活歴や暮らしのパターンを把握し、出来る限り希望に添えるように、そして、ご自分の気持ち・意志を表現できない方の気持ちをくみ取り、不安を解消出来るように努めている。	入居時のアセスメントや入居後の入居者とのコミュニケーションの中で意向が把握され、随時ケアプランに反映されています。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面談や入居後のアセスメントに加え、面会された友人・親族からも生活歴や嗜好品を聞き取るように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の能力や生活歴に応じた暮らしが出来るように、生活していく中での変化や状況を総合的に把握し、職員・ご家族と情報が共有出来るように努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な面談や状況報告に加え、緊急時には電話等で状況を報告・確認し、意思確認を行っている。状況に応じて主治医や関係機関の支持を得て介護計画に反映している。</p>	<p>計画作成の際の会議には家族にも参加していただくよう働きかけ、支援目標は、家族の意見が十分に反映されるように配慮されています。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常生活の変化に気づきご本人の言葉・希望を記録にし、介護計画へ反映出来るように努めている。また、職員同士情報を共有統一のケアが出来るように心がけている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の要望に柔軟に対応出来るように努めている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアや体験学習の受け入れを積極的にを行い、交流に努めている。また、消防・警察等にも定期的に働きかけ、活動内容を報告している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>長年のかかりつけ医を引き継ぎ、入居前の健康診断や医療情報を提供していただき、健康状態を把握出来るように努めている。また、医療連携体制をとっており、協力医がかかりつけ医でない場合も、協力医に医療情報を提供している。希望があれば、協力医への主治医変更等の支援もしている。</p>	<p>入居者の状態に応じた週1～2回の往診と月1回の定期的な往診が行われています。専門医への通院は基本的に家族が対応され、診察の結果など電話や文書による情報交換が行われています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制をとっており、定期的な看護師の訪問がある。日々の細かな変化を相談し、訪問看護師や医師からのアドバイスや必要に応じて受診等の指示をいただける。利用者の変化がある場合、アドバイスを受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時には介護サマリー用意し、入院機関の医師・看護師・ソーシャルワーカー等と、入院された方の不安や苦情を最小限におさえられるように情報を交換している。定期的に訪問し早期退院出来るように、他の入居者・職員の愛のパワーを注入している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>日頃から入居者・家族・職員・関係機関と繰り返し話し合いの機会を設けている。</p>	<p>契約時に方針を明確にされ、家族からの同意も得られています。職員研修により職員の不安解消にも努められています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な研修や協力医からの対応方法等を学び、すべての職員が事故発生時に速やかに対応出来るように努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルの整備と定期的な訓練にて、入居者・職員の意識を高めている。「となり組」として近隣の皆さんの協力が得られるように日頃から働きかけている。</p>	<p>夜間想定も含め、年に4回の避難訓練が行われています。近隣からは「避難の際には協力します。」との声も頂かれており、備蓄についても水と乾物を中心に4～5日分が準備されています。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、丁寧に対応出来るように心がけている。ケースによっては馴染みの呼称や言葉遣い・方言等は、ご家族に同意を得て行っている。	人格を尊重した言葉遣いについて指導が行われています。職員との面談で得られた「他の事業所の対応を見てみたい」という意見についても取り入れられ、職場実習も実現されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や表現を大切に「遣り甲斐・生き甲斐」を出来るだけ引き出し、共感出来るように努めている。また、意欲が低下されている方にも「行ってみれば・やってみたら楽しかった♪」と思っけて頂けるようなサポートが出来るようにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、その日の天候や気分・体調にあわせて外出したり行事を決めたりし、一人一人の呼吸を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理髪店のみなさんが大変良くして下さり、入居当初は馴染みの所へ行かれていても、入居者同士の会話の中で変更される方がほとんどである。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る力・体調により、役割分担して楽しみながら食事の準備・後片付けをいただいている。	食材は一括注文のほか、入居者と共に買い物に行かれることもあり、畑の芋類を調理したり、稲荷寿司等を一緒に作られたりする際には、入居者の生き生きとした表情が見られるとのこと。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医へ相談し個々の健康状態に応じた食事量・形態・水分量を確認している。また、急な状態の変化に応じてトロミ食・高カロリー飲料等を常備している。		



42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食前のうがいと毎食後口腔ケア、義歯のかたは眠前に洗浄剤にて消毒を施行している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>それぞれの排泄のパターンを入居後モニタリングし、そのかたにあった排泄誘導・介助を行っている。各居室にトイレがあるため、失敗も少なく気持ちよい排泄へとつながっている。</p>	<p>各居室にはトイレが備わっています。職員は、排泄表を用いて入居者の排泄パターンを把握し、個別の誘導方法が検討され実践されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の散歩・運動・食事や水分摂取に心がけ、薬に頼らず、自然排便できるように取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴剤の使用や個々の状態に応じて、日曜日以外は入浴出来るようにしている。また、時間にとらわれず、失禁等があった時は、シャワー浴を行っている。</p>	<p>毎日お風呂にはお湯がはられ、入浴剤やお湯の温度の好みに応じて入浴の順番が考慮されるなど、入居者の希望に添えるよう工夫されています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>「よく遊び・よく食べる」をモットーに散歩・レクリエーション等で日中楽しく過ごしていただき、夜間対は良眠していただてるように心がけている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬に対する意識は高く、副作用・用途を出来る限り把握し、新しく開始・中止された際には経過をしっかりと観察し、記録に残すように心がけている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴を大切にし、ホームでの新しい役割をそれぞれが「私の持ち場！出番！」とやりがいを持って生活していただけるようにサポートしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者のみなさん活動的で「花を買いに行きたい」「100円のお店に連れてって」と外出される機会が多くみられる。</p>	<p>ほぼ全員が毎日散歩に出掛けることを習慣とされています。希望により、遠出の機会も設けながら、日常的な外出を支援されています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な方はご家族の同意のもと金銭管理をされている。たまにみなさんに「俺がかかってやる！」大盤振舞され、後日「お金の少なくなった」といわれることもあるが・・・ご愛敬</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望に応じて電話を取り継いだり、手紙を出しに行ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファにて談笑や日向ぼっこ、お互いの居室を訪問したりといった風景がよくみられる。フローアのカーテンは「眩しいから」「日向ぼっこしよう」と入居者自ら開け閉めされ、お互いの時間を共有されている。</p>	<p>共用の居間や玄関などに座り心地の良いソファを置き、自由な時間にくつろげる工夫をされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれのお気に入りの空間にて過ごされている。たまに2階に遊びに行ったり、1階に遊びに行ったりし、思い思いに過ごされている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みの家具や食器を持参していただくようにし、思い思いに家族の写真や作品をディスプレイされている。	使い慣れた家具を持参いただくよう入居時に話をされ、テレビやタンス、鏡台などが持ち込まれています。居室入口には職員手作りののれんがかけられ、家庭的な雰囲気作りに努められています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの有する力を最大限に生かせるように、個々役割や出番・生き甲斐を支援しているように心がけている。また失敗や混乱がみられる時にも、速やかに落ち着き安心していただけるような関係・環境づくりに努めている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」と掲げられた理念は、地域の中で、また家庭的環境の中での実現をめざして策定されています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関係は良好で、地域と共にご利用者を支える関係づくりが行われている。町内会との連携も強く、行事なども含め、小中学校や保育園とのかかわりも大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、町内会長、民生委員の方から周囲の高齢者の生活や傾向などを教えていただき、相談があれば随時相談に応じたり、その方にあつた機関へ紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績報告やホームページでの変更事項等を毎回報告している。また、意見交換や質問事項であげられた事は、次回開催されるまで具体化できるように努める。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	佐世保主催の研修や説明会には積極的に参加し、関係部署（長寿社会化・保護課等）へはホーム便りを持参するようにしている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束のマニュアルを整備してあるが、「拘束」せずに「心で包んでく」ように心がけている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的に勉強会を実施し、日常の何気ない行動や言葉かけが虐待にあたらないか職員で話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修参加等の学ぶ機会を設けている。 (現在、成年後見制度を活用している利用者がいる)</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、ホームの独自のしおりを作成して説明を行い、疑問・不安点等は、入居後の面談の際に再度聞き取りを行っている。また、契約時の内容と変更が発生した時は、家族会総会にて変更内容を説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等にアンケートを実施し意見・要望を収集し、出された意見をケアや活動に反映していけるよう努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的なミーティングにて意見を交換している。また、年に1度の個人面談を実施している。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>本年度から代表者もミーティングに参加し、職員個々の努力や実績を管理者より、時折報告を受けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修会を開催し、職員も意欲的に取り組んでいる。また、資格取得にも意欲的で、そのための研修・講習等の参加も積極的に支援している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協会や介護支援専門員研修にも積極的参加し、同業者の情報交換を行っている。近隣のグループホームと風船バレー大会を行ったイベントに誘っていたり、地域のグループホームとの交流は積極的に行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>訪問、面談を行い利用者、ご家族、友人、民生委員や利用していたサービス事業者の担当者等から不安や情報などを聞き取り、出来る限り安心した生活のスタートが出来るように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居を申し込みにいたった経緯や、ご家族等の支援状況、これからの不安や希望等を聞き取り、安心な生活へとつなげていけるように関係づくりを行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容を把握し、不安の解消や必要とされているサービスをホーム内に留まらず専門家からのアドバイスをいただけるように努めている。</p>		

18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>歩んで来られた歴史や環境、ご家族・親族・友人等への気持ちをわかちあい、日々一緒に生活していく中で新しい歴史を築き、様々な感情を共有出来るように努めている。また調理や畑仕事等昔ながらの方法や習わし等を協働することにより教えていただいたり共感できている。</p>		
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月に一度の近況報告に加え、面会・面談時にホームあった個々のおもしろ話やハプニング等を伝え、ご家族からも、昔のエピソード等を聞かせていただく。「ゆっくり・いっしょに・楽しく」過ごしていただけるようにどのご家族も協力的でいらっしゃいます。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている</p>	<p>以前住んでいた近所へドライブや友人等の訪問は頻回である。訪問された方にも、事前にお電話をいただき外出していないか等の確認をしていただき、継続的な関係づくりを支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>それぞれの関係を理解し、トラブルが起こったり孤立させないような関係作りにつとめる。必要に応じて席替えや居室変更を行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>「家族」としての関わり合いを大切にし、契約終了後も訪問したり連絡をとっている。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居前の聞き取りや、生活をしていられる中での対話の中から、個々の生活歴や暮らしのパターンを把握し、出来る限り希望に添えるように、そして、ご自分の気持ち・意志を表現できない方の気持ちをくみ取り、不安を解消出来るように努めている。</p>		



24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の面談や入居後のアセスメントに加え、面会された友人・親族からも生活歴や嗜好品を聞き取るように努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>個々の能力や生活歴に応じた暮らしが出来るように、生活していく中での変化や状況を総合的に把握し、職員・ご家族と情報が共有出来るように努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的な面談や状況報告に加え、緊急時には電話等で状況を報告・確認し、意思確認を行っている。状況に応じて主治医や関係機関の支持を得て介護計画に反映している。</p>		
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日常生活の変化に気づきご本人の言葉・希望を記録にし、介護計画へ反映出来るように努めている。また、職員同士情報を共有統一のケアが出来るように心がけている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の要望に柔軟に対応出来るように努めている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアや体験学習の受け入れを積極的に行い、交流に努めている。また、消防・警察等にも定期的に働きかけ、活動内容を報告している。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>長年のかかりつけ医を引き継ぎ、入居前の健康診断や医療情報を提供していただき、健康状態を把握出来るように努めている。また、医療連携体制をとっており、協力医がかかりつけ医でない場合も、協力医に医療情報を提供している。希望があれば、協力医への主治医変更等の支援もしている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制をとっており、定期的な看護師の訪問がある。日々の細かな変化を相談し、訪問看護師や医師からのアドバイスや必要に応じて受診等の指示をいただける。利用者の変化がある場合、アドバイスを受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された時には介護サマリー用意し、入院機関の医師・看護師・ソーシャルワーカー等と、入院された方の不安や苦情を最小限におさえられるように情報を交換している。定期的に訪問し早期退院出来るように、他の入居者・職員の愛のパワーを注入している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>日頃から入居者・家族・職員・関係機関と繰り返し話し合いの機会を設けている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的な研修や協力医からの対応方法等を学び、すべての職員が事故発生時に速やかに対応出来るように努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルの整備と定期的な訓練にて、入居者・職員の意識を高めている。「となり組」として近隣の皆さんの協力が得られるように日頃から働きかけている。</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、丁寧に対応出来るように心がけている。ケースによっては馴染みの呼称や言葉遣い・方言等は、ご家族に同意を得て行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や表現を大切に「遣り甲斐・生き甲斐」を出来るだけ引き出し、共感出来るように努めている。また、意欲が低下されている方にも「行ってみれば・やってみたら楽しかった♪」と思って頂けるようなサポートが出来るようにつとめている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、その日の天候や気分・体調にあわせて外出したり行事を決めたりし、一人一人の呼吸を大切にしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理髪店のみなさんが大変良くして下さり、入居当初は馴染みの所へ行かれていても、入居者同士の会話の中で変更される方がほとんどである。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の出来る力・体調により、役割分担して楽しみながら食事の準備・後片付けをいただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医へ相談し個々の健康状態に応じた食事量・形態・水分量を確認している。また、急な状態の変化に応じてトロミ食・高カロリー飲料等を常備している。

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食前のうがいと毎食後口腔ケア、義歯のかたは眠前に洗浄剤にて消毒を施行している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>それぞれの排泄のパターンを入居後モニタリングし、そのかたにあった排泄誘導・介助を行っている。各居室にトイレがあるため、失敗も少なく気持ちよい排泄へとつながっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の散歩・運動・食事や水分摂取に心がけ、薬に頼らず、自然排便できるように取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴剤の使用や個々の状態に応じて、日曜日以外は入浴出来るようにしている。また、時間にとらわれず、失禁等があった時は、シャワー浴を行っている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>「よく遊び・よく食べる」をモットーに散歩・レクリエーション等で日中楽しく過ごしていただき、夜間対は良眠していただくように心がけている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬に対する意識は高く、副作用・用途出来る限り把握し、新しく開始・中止された際には経過をしっかりと観察し、記録に残すように心がけている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の生活歴を大切にし、ホームでの新しい役割をそれぞれが「私の持ち場！出番！」とやりがいを持って生活していただけるようにサポートしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者のみなさん活動的で「花を買いに行きたい」「100円のお店に連れてって」と外出される機会が多くみられる。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な方はご家族の同意のもと金銭管理をされている。たまにみなさんに「俺がかってやる！」大盤振舞され、後日「お金の少なくなった」といわれることもあるが・・・ご愛敬</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望に応じて電話を取り継いだり、手紙を出しに行ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ソファにて談笑や日向ぼっこ、お互いの居室を訪問したりといった風景がよくみられる。フロアのカーテンは「眩しいから」「日向ぼっこしよう」と入居者自ら開け閉めされ、お互いの時間を共有されている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれのお気に入りの空間にて過ごされている。たまに2階に遊びに行ったり、1階に遊びに行ったりし、思い思いに過ごされている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り馴染みの家具や食器を持参していただくようにし、思い思いに家族の写真や作品をディスプレイされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの有する力を最大限に生かせるように、個々役割や出番・生き甲斐を支援していけるように心がけている。また失敗や混乱がみられる時にも、速やかに落ち着き安心していただけるような関係・環境づくりに努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない